

2012 年「地域公共交通を考える」
 2013 年「観光と地域鉄道の活性化」
 2014 年「日本の高速鉄道輸出を考える」
 2015 年「人口減少社会における鉄道多角化経営」
 2016 年「直通運転の利便性を考える」
 2017 年「JR 路線廃止問題を考える」
 2018 年「鉄道と『統合』 - メディアの役割を考える」

■現在公開に向けて調整中の物(2023 年 11 月現在 公開のめどが立ちましたら公式 X(旧 Twitter)などで告知いたします)

2019 年「『通勤ライナー』と一般列車の共存」
 2020 年「コロナ禍と鉄道」
 2021 年「鉄道の『競合』と『共存』」
 2022 年「鉄道の発展と省人化」

2.活動紹介

私たち鉄道研究会は、定期的な旅行、一橋祭への出店、部誌の作成、部会での部員同士の交流を主な活動内容としています。旅行は新歓期、夏休み、冬休みの計 3 回を基本としていますが、部員の要望次第でそれ以外にも実施する場合があります。一橋祭では、部にある鉄道模型を展示し、各部員が執筆した記事をまとめた部誌を配布しています。テーマはそのときどきによって変わります。その他の部会については、適宜、LINE などで日程調整をして、部員同士の交流を図っています。また、前述した内容でない活動であっても、部員の意見があれば実現できるように心がけています。

3.編集後記

本年度の研究誌を最後までお読みいただきありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響でなかなか活動ができていませんでしたが、昨年度の一橋祭、春季休業中の水戸旅行を皮切りに部会や旅行などを徐々に復活させ、本年度は夏旅行を行うこともできました。また、対面となった新入生歓迎会の結果、2 人もの一年生に入会していただきました。

そのような状況において、やはり個人研究ではなく伝統である個人研究を復活させたいという部の思いが出てきました。コロナ禍前の研究をよく知る部員はほぼおらず、また部会なども順調にできなかったため、相当な苦勞が生じましたが、何とかこのような形になったことを大変喜ばしく思います。

表紙、本文部分のデザインを担当しましたが、昨年度の物の設計を踏襲しつつも、個人的にアレンジを加えました。来年度以降につなげるため、ご意見をいただけると幸いです。

最後になりますが、本誌をお読みいただいた読者の方、そしてなにより私の不慣れな計画によって苦勞を強いたのにもかかわらず原稿を提出していただいた部員の皆様に感謝を述べて、研究誌 2023「帰ってきた観光と観光列車戦略」の編集後記とさせていただきます。

(2 年 佐野)